

IR説明会開催 平成17年度業績見通し・当社の技術の強みについて

9月9日、本社2階ホールにおいて、約180名のアナリスト・機関投資家を対象に、当社の今年度業績見通しに関する説明会を開催した。

製鉄事業を取り巻く環境変化が大きい中で、昨年に続き、年初の見通しを若干上回る水準で

過去最高益を更新する見通し()について説明。続いて永広副社長から「当社の技術の強みについて」と題して、需要家のニーズに対応し、先進技術を創出し続け、新商品をタイムリーに提供してきた歴史と、それを通じた需要家との長期に亘る緊

密な信頼関係について説明を行った。参加者から多数の質問が寄せられ、当社に対する理解を深める良い機会と好評を得た。

連結売上高38,800億円(うち上期18,400億円) 連結経常利益4,900億円(うち上期2,700億円) 連結当期利益3,100億円(うち上期1,800億円)



当社の技術の強みについてプレゼンテーションする永広副社長

タイ、インドネシアでターンキー受注

新日鉄 鉄構海洋・エネルギー事業部は、PTT-EP社()からタイ/シャム湾に新規に建設する天然ガス開発用プラットフォーム3基(総重量約6,100トン)およびパイプライン(全長22km)につき、設計・調達・製作・据付・試運転を含む工事一式を受

注した。同事業部は過去3つのバンコット開発プロジェクトに参画しており、今回で4度目の受注。

また、同事業部インドネシア子会社PT Nippon Steel Construction Indonesia(NISCON社)が、Total E & P Indonesia社からイン

ドネシア/Sisi及びNubiフィールドに新規に建設する天然ガス開発用プラットフォーム3基(総重量約2万トン)の設計・調達・製作・据付・試運転を含む工事一式を受注した。本案件は、Pecikoフェーズ1及び2に続いてTotal E & P Indonesia社から3度目の受

注。今後も東南アジアを中心とした石油・天然ガス開発関連事業の発展に貢献していく。

PTT Exploration and Production Public Company Ltd

お問い合わせ先
鉄構海洋・エネルギー事業部
TEL 03-3275-6411

鉄鋼スラグを用いて、実海域での「磯焼け」を改善

海の緑化に向け産学研究を進めている「海の緑化研究会」(代表:工学院大学教授定方正毅氏 東京大学名誉教授)は、漁獲高減少の一因「海の磯焼け」の改善策として研究してきた鉄鋼スラグと腐植物質からなる混合物の実用化に向け、実海域での施肥実験を行い大きな効果を確認した。

日本の沿岸では「磯焼け()」が急速に進み、沿岸域の数千haもの藻場が消失(水産庁報告)し、魚の生息場・産卵場所の消失で漁業に大きな被害が出ている。東京大学で磯焼け改善の研

究に取り組んできた定方教授は、フルボ酸鉄(鉄鋼スラグ等の二価鉄を含有する物質と廃木材チップを発酵させた腐植物質の混合物中に存在)が藻類の成長促進に有効であることを、(独)産業技術総合研究所等と研究室での基礎実験や水槽を用いた培養実験を通じて科学的に実証・報告してきた。

研究会メンバーの新日鉄、(株)エコ・グリーン、西松建設(株)は、北海道増毛町の増毛漁業協同組合の協力を得て、磯焼けが深刻な含熊海岸(増毛町)の汀線(波打ち部の陸側)約15mに施

肥ユニットを設置。海中観察の結果、同海岸の設置部から沖合い130mの海域に、コンブ等が豊かに生育していることが確認され、二価鉄含有物と腐植物質の混合物が、磯焼けの改善、特にコンブの成長促進に有効であることが初めて確認できた。

本技術は、近海漁業の活性化や鉄鋼スラグ、バイオマス等の有効利用への寄与だけではなく、陸上植物に比べて成長速度が速い藻類が二酸化炭素を吸収するため、温暖化の対策技術としても期待される。

磯焼け;コンブやワカメ等の有用な海藻群落が消失し、岩石や岩盤が石灰藻と呼ばれる炭酸カルシウムを主成分とする白色小型藻類に覆われ海が砂漠化した状態。磯焼けの原因には、海水温の上昇、水質汚濁や、有用な藻類をウニが食い荒らす等の種々の複合要因などの他に、河川上流における木々の伐採で腐植土(落ち葉の堆積)中の「腐植酸鉄」ができにくくなり、藻類の成長に必要な鉄分(二価鉄イオン)の海への供給が減少したことも原因の一つと考えられている。

お問い合わせ先
総務部広報センター
TEL 03-3275-5021

中国における自動車用鋼管二次加工事業会社の設立で合意

旭鋼管工業(株)、新日鉄、三井物産(株)及び三井物産(香港)有限公司は、今般、中華人民共和国広東省広州市に、自動車用引抜鋼管(最終用途:ステアリングシャフト、ショックアブソーバー、防振ゴム等)の製造・販売をおこなう事業会社「広州旭鋼管有限公司」()を設立する。新会社は、旭

鋼管工業(株)が保有する伸管(鋼管の引抜)切断等の二次加工品の製造ノウハウを導入し、中国国内で高精度、高品質の自動車用鋼管を現地進出の日系自動車部品メーカー向けに供給予定だ。

新日鉄が新会社の引抜鋼管用材料の安定確保に向け全面的に支援することで素材からの一貫した品

質管理・安定供給を実現するとともに、三井物産(株)は、中国で既に展開している自社事業における知見・ネットワークを活用し、新会社の事業運営を総合的に支援、当該事業を共同で推進する。

中国で高品質の自動車用引抜鋼管を安定的に供給し、需要家ニーズに応えることで、各社の自動車

用鋼管分野の営業力の一層の強化が図られることが期待される。2006年6月営業生産開始を予定。

資本金3,500万円 /

旭鋼管工業(株)50% 新日鉄20% 三井物産(株)20% 三井物産(香港)有限公司10%

お問い合わせ先
総務部広報センター
TEL 03-3275-5021

鉄鋼圧延用鑄造ロール製造・販売の共同事業化で合意

新日鉄と住友金属工業(株)は、来年4月より、新日鉄100%子会社の日鉄ハイパーメタル(株)と住友金属100%子会社の(株)カントクの圧延用鑄造ロールの製造・販売事業を統合し、共同事業化する基本方針に合意した。鋼板の品質や生産能力を左右

する圧延ロールを安定的に調達できる体制を強化することが必要と考え、両社圧延ロールの製造・販売事業の強化を検討してきた。両社それぞれが持つ工場(戸畑、和歌山)を、共同事業化後に戸畑工場に統合し、和歌山事業所から戸畑工場への設備

移管、戸畑工場で若干の設備増強を実施し、戸畑工場のネットワーク工程を解消することで、一貫生産能力を向上させる。

加えて、両社技術の融合による一層品質の向上、技術開発力強化を狙い、内外の製鉄会社に品質・サービスともに

従来以上に充実した圧延ロールを提供していく。

お問い合わせ先
総務部広報センター
TEL 03-3275-5023

国際鉄鋼協会 (IISI) 年次総会を開催

10月2～6日まで、韓国・ソウルにて国際鉄鋼協会の第39回年次総会が開催された。次期会長にアルセロールのドレCEOが就任することが決まった。

釜石 線材工場 累計生産 2,000万トンの達成

棒線事業部釜石製鉄所線材工場は、昭和36年10月の稼働開始以来、40年以上にわたり、スチールコード用線材に代表される高品質線材の生産に努め、H17年9月18日、累計生産量が2,000万トンに到達した。この記録は、

直径5.5ミリの線材製品に換算すると、総延長1億km、地球2,700周、太陽までの道のりの三分の二に相当する。

大津工場長は「この記録は、お客様各位の長年のご愛顧と先人たちのたゆまぬ努力の積み重

ねに他ならず、今後とも、安全と品質を最優先に、お客様に感動を与える線材製品を造り続けるべく、なお一層の技術改善に邁進していく決意を一同新たにしている」と語った。



お問い合わせ先 釜石製鉄所 総務部
TEL 0193-24-2331

環境・社会報告書 ~ Sustainability Report ~ 2005 発行

企業の社会的責任 (CSR) の取り組みに注目が集まる中、本年は従来の「環境報告書」に加えて、様々なステークホルダーに対する当社の活動を多面的に紹介することとし、「社会性報告」の側面を大幅に拡充しタイトルを「環境・社会報告書 Sustainability Report-2005」とした。「経済」の側面に関する「アニュ

アルレポート」と併せ、「環境・社会・経済」をカバーする「CSR報告書」となる。

社長ステートメントの中では、企業理念の制定ならびに社員行動指針の策定について触れ、「2030年の環境・エネルギーロードマップ」の実行状況をレビューした。

「社会性報告」を大幅に拡充

し、内部統制・リスク管理体制、コンプライアンス情報や、品質保証体制、サプライチェーンマネジメント、株主還元 (配当方針) 情報開示 (四半期開示の導入) 国内外IR説明会開催、人事諸施策、アスベスト問題への対応などを報告した。発行予定部数は2万4千部。当社のホームページを通じて公開。

* 当社ホームページ (「環境経営」)
<http://www0.nssc.co.jp/kankyoku/index.html>



お問い合わせ先 環境部
TEL 03-3275-7567, 6099

日本グラフィットファイバー(株) 中小企業無災害記録『銀賞』とSAMPE Japan『製品・技術賞』をダブル受賞

新日鉄グループの日本グラフィットファイバー(株)広畑工場は3,600日無災害を記録し、中小企業無災害記録銀賞を9月1日受賞した。

また、同社広畑工場が無災害

記録を更新する中、同社が製造販売してきたピッチ系低弾性率炭素繊維に、SAMPE Japan (先端材料技術協会日本支部) より製品・技術賞が贈られ、9月29日に受賞記念講演を行った。

同社のピッチ系低弾性率炭素繊維は、通常の炭素繊維に比べ伸びが大きいという特長をもち、ゴルフシャフトや競技用釣竿に広く適用されている。愛好家からは、「しなりがいい」と評判の逸品だ。

お問い合わせ先 日本グラフィットファイバー(株)
TEL 03-5645-7671 (大野)



ニッテツスーパーフレーム工法3階建耐火建築の説明会が盛況

9月6日、本社2階ホールで「NSF工法3階建耐火建築説明会」が実施された。冒頭、NSF工法概要、性能に続き、採用が拡大している「3階建設耐火構造」の優位性について橋本伸一郎部長からの説明に続き、東京電気大学 中尾 雅躬(まさみ)教授の講演「スチールハウス わが国への導入から現在まで」が行われ、200人の参加者で会場が埋め尽くされた。



お問い合わせ先 薄板営業部住宅建材開発グループ
TEL 03-3275-7217

『新日鉄技報』最新号のお知らせ

最新383号の特集テーマは「新素材特集」。当社ホームページ(「研究開発ページ」)の新日鉄技報最新号をクリックすることでダウンロードできる。



お問い合わせ先 技術開発企画部
gihou@re.nssc.co.jp

新日鉄住金ステンレス(株) ステンレス万博(上海)に出展

新日鉄住金ステンレス(株)は9月20～22日に中国・上海で行われたステンレス万博(主催:中国鋼鉄工業協会)に出展した。同社は「技術で生きる会社」と

して、薄板、厚板、棒線それぞれの高機能・高付加価値製品を展示。ニッケルレス・モリブデン無添加で日本市場において豊富な適用実績を有する高耐食性

クロム系薄板「NSSC 180」等の独自商品群が丁寧に説明され、ブースは常に盛況だった。

お問い合わせ先 新日鉄住金ステンレス(株) 企画部
TEL 03-3276-4912



紀尾井ホール (財)新日鉄文化財団

11月主催・共催公演情報から <http://www.kioi-hall.or.jp>

1日 いずみホール・紀尾井ホール作曲共同委嘱
アール・レスピラン結成20周年記念 第20回定期演奏会
6日 シリーズ「歌」～こころと響き合うとき～Vol.6
イタリア・オペラ400年の流れ～ 松本美和子 歌いつづけて40年～

16日 いずみシンフォニエッタ大阪 東京公演
17日 杵屋五三郎をきく会 【邦楽】
22日 白井光子&ハルトムート・ヘル

お問い合わせ・チケットのお申し込み先: 紀尾井ホールチケットセンター TEL 03-3237-0061 受付10時～19時 日・祝休